

(別記)

## 扶桑町地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、主食用米水稻を中心に作付けされており、主食用米の需要が減少する中、担い手への農地集積により麦・飼料用米の作付けに転換することで、水田面積の維持を図っている。

また、都市近郊であるため農地転用が進み、農家の高齢化とともに土地持ち非農家が増える中、効率的かつ安定的な農業経営を営む担い手への面的な農地集積を進めていくことが課題である。

### 2 作物ごとの取組方針等

#### (1) 主食用米

前年の需要動向や集出荷業者等の意向を勘案しつつ米の生産を行う。  
ニーズに応じた生産と安定取引を図る。

#### (2) 非主食用米

##### ア 飼料用米

麦に次ぐ転作作物に位置づける。

飼料用米の生産拡大にあたっては、主食用米品種での対応とし、産地交付金を活用し所得を増加させるため、作付面積の増加を図る。

#### (3) 麦

麦については、需要者の要望に即し計画生産していくとともに、産地交付金を活用し、生産性向上の取組を推進する。

### 3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 29 年度の作付面積 (ha)	平成 30 年度の作付予定面積 (ha)	平成 32 年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	6.1	6.1	5.8
飼料用米	2.6	2.6	3.6
米粉用米	0	0	0
新市場開拓用米	0	0	0
WCS 用稲	0	0	0
加工用米	0	0	0
備蓄米	0	0	0
麦	1.5	1.6	1.8
大豆	0	0	0
飼料作物	0	0	0
そば	0	0	0
なたね	0	0	0
その他地域振興作物	0	0	0
野菜	0	0	0

### 4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標	
				現状値	目標値
1	麦	麦の収量向上への対策 (基幹作物)	10 a 当たりの収量	(平成 29 年度) 435 kg/10 a	(平成 32 年度) 450 kg/10 a
2	麦	麦の収量向上への対策 (二毛作)	10 a 当たりの収量	(平成 29 年度) 435 kg/10 a	(平成 32 年度) 450 kg/10 a
3	飼料用米	飼料用米の生産性向上への対策	作付面積	(平成 29 年度) 2.6 ha	(平成 32 年度) 3.6 ha

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内としてください。

### 5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり